

## 家計改善支援事業 ビデオレター 3人のプロフィール(2022年8月24日)

社会福祉法人グリーンコープ

### ①50歳代男性（心の病で失職し生保受給しながら就労をめざす一人世帯）

＜相談に繋がった時の背景＞

- 40歳代まで、職を転々としてきたが50歳の時に自主退職した以降は、派遣労働。
- 寮付きの就労期間中に自立神経失調症となり、入院となった。
- 退院後、携帯代など多額の借金(600万円強)を抱えていたことが判明し、生活保護の受給を開始したが、出費が抑えられないことに不安を感じ、CWを通して家計改善支援を希望した。

＜支援内容＞

- 家計の収支と債務を明らかにして支出削減を相談し、債務整理のための同行支援を行った。
- 債務整理の目途が立ったことで、精神的に安定し、支出のコントロールが可能となり、就労意欲が湧くようになった。
- CWや就労準備支援員と連携して、本人のペースを尊重しながら、生活を立て直していくための支援を継続中。

### ②80歳代女性（借金・滞納、不安定収入で生活できなくなった高齢一人世帯）

＜相談に繋がった時の背景＞

- 定年まで勤めたが退職後、居場所や社会的な役割喪失等のストレスにより、支出過多となり、借入金の増加で自己破産。
- 年金担保貸付の返済があり、年金(7万円)と非常勤での就労収入(4~5万円、季節により0円)のみで収入が安定せず、光熱費や家賃、税等を滞納。
- 生活費が無くなり、身寄りもなかったことから、市の税務部署から家計改善支援機関の紹介を受けた。

＜支援内容＞

- 市の税務部署等への同行支援を実施。滞納状況確認後、生活保護の申請をした。
- その後、家計状況が改善したことにより、年金担保貸付を完済し、生活保護からも脱却。
- 継続して家計改善支援を実施し、光熱費、家賃、税等の分納や返済に同行して返済も終え、現在も就労を継続しており、生活も安定してきている。

### ③40歳代男性（転職後コロナ禍で収入が減少した、妻(無職)との二人世帯）

＜相談に繋がった時の背景＞

- 他市から2年半前に転居し、タクシー会社に転職。
- コロナの影響で収入が半減し、家賃や税を滞納するようになったことから、緊急小口資金の特例貸付を利用したが、生活の見込みが立たず、総合支援資金の申請の際に、自立相談支援機関からの紹介で、家計改善支援に繋がった。

＜支援内容＞

- 総合支援資金の延長貸付・再貸付を申請する際に、家計表を作成。家賃や税の分納計画の作成や、他の公的給付などの申請支援を行った。
- その後も、支出の見直し等の支援を継続し、就労条件のよいタクシー会社への転職や、世帯員の就労開始による収入増等により、現在はローンや税、家賃の滞納も解消に向かっている。